

瀬戸の花夢プロジェクト

～Set on an innovation～



岡山県立瀬戸南高等学校 園芸科学科 3年
代表者：上月美古都
岸本 璃子 高原 佳介 川本 隼大

1 活動の動機

瀬戸南高校は岡山市東区瀬戸町に位置しており、地域に支えられ令和7年度で創立100周年を迎えた歴史ある学校である。

山陽学園大学 地域マネジメント学部 神田教授に“地域と高校生：地域貢献活動について”をテーマに出張授業をしていただいた際、東区は高齢化率が高く人口も減少していることを知ったことから、普段学んでいる園芸の知識や技術を活かし、【①花を使ってこの地域を元気にしたい】と考えた。

また、令和7年4月中旬の校内販売会の際、お客様が少なく、花の売り上げは野菜苗の1/4程度しかなかったことから、【②もっと地域の方々に直接花を販売したい】と考えた。



〔図1〕瀬戸南高校



〔図2〕山陽学園大学の出張授業



〔図3〕昨年度の春の苗もの販売会

2 需要の把握

(1) アンケート調査（対象：地域の方々57名）

秋冬の代表的な草花であるパンジー・ビオラに注目すると、4月末まではきれいに咲いていたため、「パンジー・ビオラを植え替えたくなる5月上旬に需要が上がる」という仮説を立て、

- ①いつ販売会をしてほしいか。
- ②販売会の際に販売・実施してほしいものは何か。
- ③草花を学ぶ生徒に期待していることは何か。

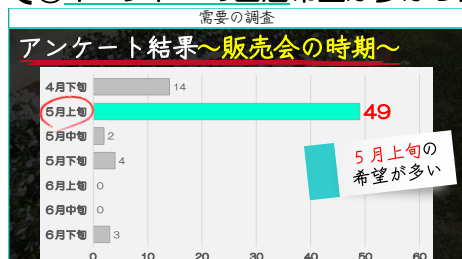
の3つの質問を聞き、仮説の検証と需要の把握を行った。



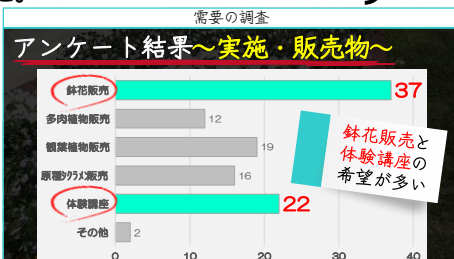
〔図4〕仮説

(2) アンケート結果

- ①仮説通り、5月上旬の販売会開催の希望が圧倒的に多かった。
- ②鉢花の販売希望と体験講座の実施希望が多かった。
- ③イベントへの出店希望が多かった。



〔図5〕アンケート結果1



〔図6〕アンケート結果2



〔図7〕アンケート結果3

3 活動

(1) 計画

アンケート結果から把握できた地域の方々の需要に応えるため、4つの瀬戸UP（セットアップ）活動を計画した。また“瀬戸南生が地域に花で貢献し夢を与える”この活動を“瀬戸の花夢プロジェクト”と名付けた。

- ・瀬戸 UP1 ～5月上旬の販売会の企画～
- ・瀬戸 UP2 ～5月上旬に販売できる鉢花の生産～
- ・瀬戸 UP3 ～地域の方々対象の体験講座の実施～
- ・瀬戸 UP4 ～地域のイベントへの出店～

そして、各活動の集大成として5月上旬の販売会を“瀬戸 GOAL（セットゴール）”と位置づけ、取り組みを開始した。



〔図8〕瀬戸の花夢プロジェクト



〔図9〕瀬戸 UP 活動計画

(2) 瀬戸 UP1 ～5月上旬の販売会の企画～

まず、4月中旬にある校内の販売会を5月上旬にずらすことができないか検討したが、花だけでなく野菜苗等の販売もあるため断念し、「自分たちだけの販売会を1から作ろう」と考えた。しかし、交通整備等を考えるとフラワー専攻の生徒だけで開催することは難しかったため、近隣の瀬戸公民館が最適な場所だと考えた。

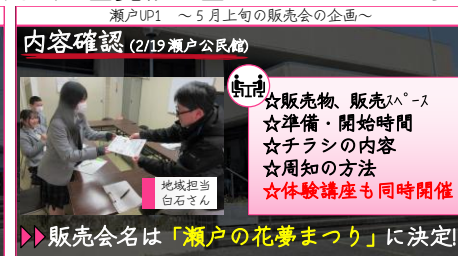
瀬戸公民館を訪れ、アンケート結果をもとに開催のお願いをしたところ、「令和8年5月9日(土)なら開催できる」と言っていただき、開催が決定した。

さらに打合せを継続していく中で、体験講座の同時開催が決定したり、販売会名が“瀬戸の花夢まつり”に決定したりと、順調に販売会の企画を進めることができた。

地域の方々に“瀬戸の花夢まつり”を周知するため、ポスターを作成し、瀬戸公民館や近隣のコミュニティハウスに掲示していただいたり、町内会の回覧板で回していただいたりして周知にも努めた。



〔図10〕瀬戸公民館打合せ1



〔図11〕瀬戸公民館打合せ2



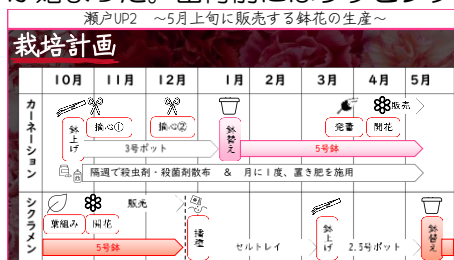
〔図12〕瀬戸の花夢まつり周知

(3) 瀬戸 UP2 ～5月上旬に販売できる鉢花の生産～

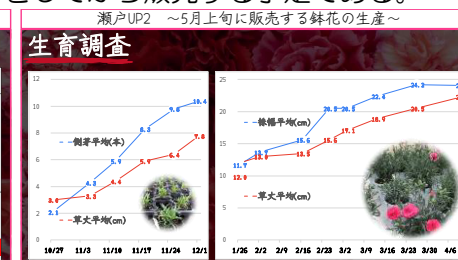
5月9日(土)開催の“瀬戸の花夢まつり”で販売できる鉢花の生産を検討した。1年で最も花を購入する日と言われている“母の日”が、令和8年5月10日(日)にあることから、母の日に照準を合わせてカーネーションの生産を行うことに決定した。

農業大学校 園芸課程 花きコースでカーネーションの研究をしている國本さんと吾郷さんにカーネーションの栽培過程や病害虫管理等を教えていただいた。それをもとに栽培計画を作成し、本校の主品目のシクラメンと比べると、5号鉢で管理する期間が被らないため経営相性が良く施設の有効利用ができると考えた。

細かな手入れや生育調査の甲斐もあってカーネーションは順調に生育し、3月には発蕾、4月中旬には開花が始まった。出荷前にはラッピングをしてから販売する予定である。



〔図13〕カーネーション栽培計画



〔図14〕生育調査



〔図15〕カーネーション開花

(4) 瀬戸 UP3 ～地域の方々を対象にした体験講座の実施～

・1学期講座

アンケート実施後、普段の授業で学んでいる寄せ植えの知識・技術を活かし、“ラベンダー入り寄せ植え講座”を実施した。

瀬戸公民館と江尻親和コミュニティハウスの2ヶ所で開催すると、2日間で31名もの地域の方々に参加していただき、山陽新聞の記事になった。

・講座後アンケート1 (対象：講座参加者31名)

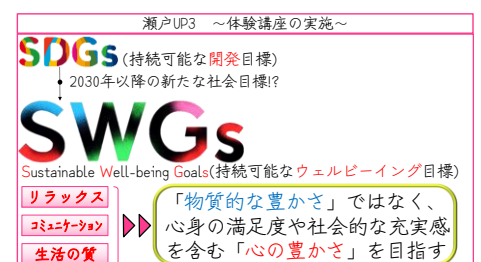
講座後、アンケートをとった。農林水産省“花きの現状”に掲載されていた“花きの効用”を参考に、

- ①リラックス効果を実感できたか。
 - ②講座中のコミュニケーションを楽しめたか。
 - ③家に飾ることで、生活の質は上がると思うか。
- を質問項目にした。また、これらはSWGsというポストSDGsとして注目されている“持続可能なウェルビーイング目標”の実現につながると考えた。

ウェルビーイングとは物の豊かさではなく、心の豊かさを目指す考え方であり、私たちの活動が貢献できると感じた。



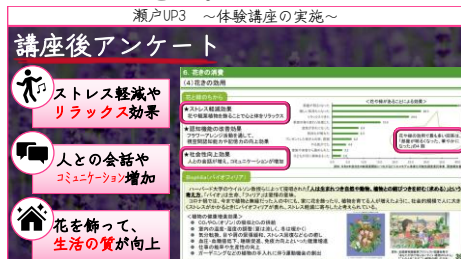
〔図16〕ラベンダー入り寄せ植え講座



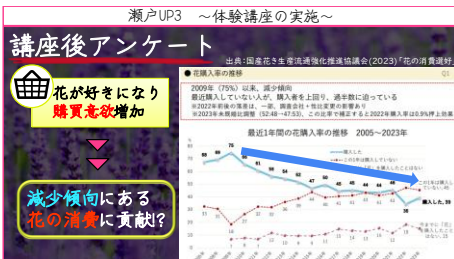
〔図17〕SWGsとは

さらに①～③の効用を感じることで、“④花を好きになり、さらに花を買いたいと思ったか。”を質問項目に加えることで、減少傾向にある花の消費拡大にも貢献できるのかを確かめた。

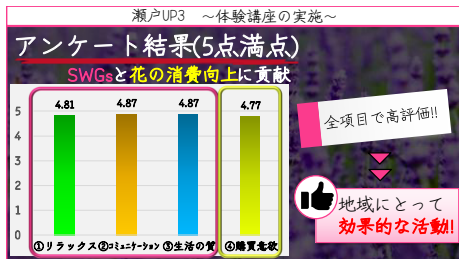
アンケートの結果、全ての項目で高評価を得ることができ、地域にとって効果的な活動であると自信を深めることができた。



〔図18〕アンケート項目1～3



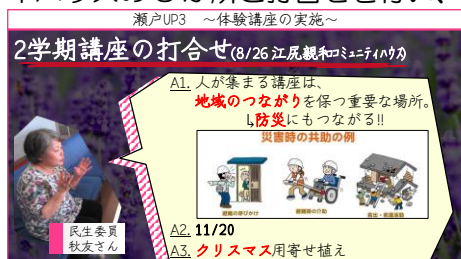
〔図19〕アンケート項目4



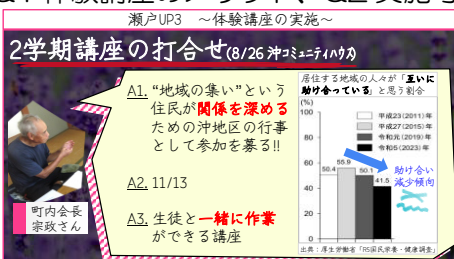
〔図20〕講座後アンケート結果

・2 学期講座打合せ

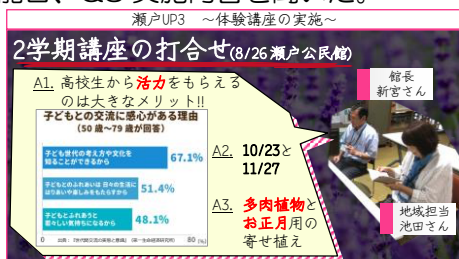
2 学期にも体験講座を行うため、学校近隣にある瀬戸公民館・沖コミュニティハウス・江尻親和コミュニティハウスの3 か所と打合せを行い、Q1 体験講座のメリット、Q2 実施可能日、Q3 実施内容を聞いた。



〔図21〕2 学期講座打合せ1



〔図22〕2 学期講座打合せ2



〔図23〕2 学期講座打合せ3

〔表1〕打合せ内容まとめ

場所	メリット	実施日	実施内容
江尻親和コミュニティハウス	人が集まることで <u>地域内のつながり</u> を強められる。それが <u>防災</u> にもつながる。	11/20	クリスマス用寄せ植え
沖コミュニティハウス	住民の <u>関係性を深められる</u> 機会になる。	11/13	フォトフレーム
瀬戸公民館	若い世代と交流することで <u>活力をもらえる</u> 。	10/23	多肉植物の寄せ植え
		11/27	お正月用の寄せ植え

・2 学期講座準備

準備の際に大切にしたのは、山陽学園大学の出張授業で神田教授から言われた「商品やサービスの先にどんなハッピーがあるのかが大切」という言葉である。これは“製品3層モデル”というマーケティングの考え方で、例えば「スターバックスが売っているのはコーヒーという形に見えるものだが、顧客が本当に求めているのは“自分だけの空間”というベネフィットである。」ということだった。

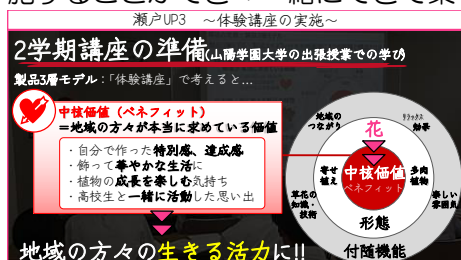
この考え方を講座に当てはめると、形に見える“花”の先にある、地域の方々が本当に求めているものは、自分で作った達成感や、一緒に活動した思い出などであり、それらを感じてもらうことで「生きる活力にしたい!」という気持ちを忘れず準備にとりかかった。

・10/23(木) 多肉植物の寄せ植え講座（瀬戸公民館）

授業で作製した経験を生かして準備をした。多肉植物の寿命の長さを活かした“長く楽しめる講座”を実施することができ、「成長が楽しみ」と、喜んでいただけた。

・11/13(木) フォトフレーム講座（沖コミュニティハウス）

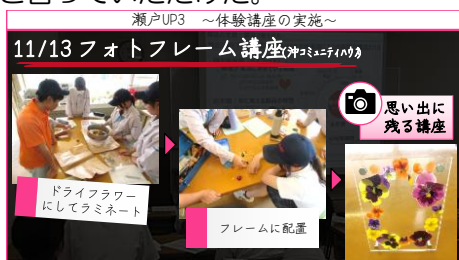
ドライフラワーをフレームにはさむことで、写真と一緒に飾れるように工夫し、“思い出に残る講座”を実施することができ「一緒にできて楽しかった。大事な写真を飾りたい!」と言っていただけた。



〔図24〕製品3層モデル



〔図25〕多肉植物の寄せ植え講座



〔図26〕フォトフレーム講座

・11/20(木)クリスマス用寄せ植え講座（江尻親和コミュニティハウス）
コニファーとガーデンシクラメンを使い、クリスマスらしい寄せ植えにしようと工夫することで、“季節を感じる講座”を実施することができ「クリスマスが楽しみ」と言っていただけた。

・11/27(木)お正月用寄せ植え講座（瀬戸公民館）
校内の放置竹林の竹を斜めにカットし、門松風に仕立てたものとハボタンを使うことで、門松のような寄せ植えにしようと工夫し“オリジナル感あふれる講座”を実施することで「自分だけの寄せ植えという特別感を味わえた！」と言っていただけた。

・講座後アンケート2（対象：講座参加者87名）
アンケートでは全ての講座で高評価をえることができ、地域の方々の生きる活力になれたと感じた。



(5) 瀬戸UP4 ～地域のイベントへの出店～
アンケート実施後、様々な地域のイベントに出店し、花を販売してきた。花き市場、レストパーク、山陽学園大学、半田山植物園、瀬戸公民館、和気ドーム、万富公民館と、季節ごとにイベントに出店し、時期にあったものを販売することで、地域のイベントを盛り上げることができた。



(6) 瀬戸GOAL～瀬戸の花夢まつり～
各瀬戸UP活動の集大成である“瀬戸の花夢まつり”は、令和8年5月9日（土）開催予定である。
・瀬戸UP1→販売会の企画・周知により、たくさんの地域の方々に足を運んでもらい地域の活性化を目指す。
・瀬戸UP2→生産したカーネーション鉢を目玉商品として販売予定。
・瀬戸UP3→体験講座の経験をいかし、当日は“カーネーション入り寄せ植え体験”を同時実施予定。
・瀬戸UP4→イベントへの出店で身につけた販売・接客のノウハウをいかし、スムーズな運営を目指す。

4 まとめ

これまでの活動では“花”を通して、地域内のつながりを深めたり、SWGに貢献したりと、活気ある地域づくりに貢献することができた。また、瀬戸UP3,4での体験・販売を通して、草花苗1390ポット、寄せ植え295鉢、鉢花101鉢等を地域の方々に直接届けることができた。これらのことから、花を通して地域活性化に貢献できたのではないと思う。

また実施途中の段階だったものの、この活動を発表すると“地域マネジメントコンテスト”では優秀賞。“田舎力甲子園”ではファイナリストに選出していただいた。
最後に、たくさんの方々のご協力のおかげで、地域貢献・地域活性化の可能性を探ることができた。瀬戸南生が地域に花で貢献し夢を与える“瀬戸の花夢プロジェクト”はまだまだ続く。

